

## VI-2-4 単元「わたしたちのまちのサポーターをさがせ！」 (草加市立花栗南小学校 第6学年)

### 1 単元指導計画

#### 1-1 単元「わたしたちのまちのサポーターをさがせ」(全15時間)

担当者 古川 憲和 小川 真理子 佐藤 志津江

#### 1-2 単元設定の理由

##### (1) 児童の実態

6年生も半ばを過ぎる頃になると、自分の将来について漠然とではあるが、夢を持つようになる。毎日の生活と自分の将来を具体的に結びつけて考えている児童は少ないが、進路についての話題が、休み時間の児童の会話の中に出てくることもある。また、身の回りの大人の言動や行為に関心を持ち、批判的な見方をする児童も出てきている。

しかし、大人になることや将来の仕事に関心を示し始めたとはいえ、日常生活の中で、様々な人とふれあう機会や経験が少ないため、身近な地域の人々が、それぞれの仕事や活動を通して、自分たちを支えてくれていることや、多くの願いや思いをもって地域の発展や安全のために力を尽くしていることに関心を持ったり、気づいたりする児童は少ない。

また、あいさつや言葉遣いなど、社会生活に必要な習慣や技能が十分身につけていないことから、人と接することに苦手意識を持ち、コミュニケーションがうまくとれないでいる児童も多い。

##### (2) 教師の願い

本単元では、今まで他教科の学習で、人物の生き方や考え方に注目して学習を進めてきたことを生かし、自分たちのまちを支える人々を調べる活動を通して、自分たちの身の回りには、様々な考えを持ち地域を支えてくれている人がいることに気づかせ、自分たちのすむまちや人々に対する共感的な心情を育てていきたい。(【成長・共生(イ)】)

また、様々な人々と接する中で、あいさつや言葉遣い、訪問における礼儀など、社会生活に必要な習慣や技能を身につけさせ、人と交流できる力をつけていきたい。そのため、訪問を2回することにより、より地域を支えている人達の考えかたや生き方と自分の生活とを結びつけて共感し、今後の自らの生き方につなげていけるようにしたい。

このような活動を通して、身近な人々の様々な生き方や考え方にふれることにより、自分自身を見つめ直し、将来の自分のありたい姿と現在の自分の生活を結びつけ、今後の生活に生かしていけるようにしたい。(【地域(イ)】)

### 1-3 単元の目標

地域を支える人々を調べる活動を通して、地域を支える人々の生き方や考え方にふれ、地域の文化や生活についての理解を深め、自分を見つめ直し、地域社会の一員として、よりよい地域社会の発展のために自分ができることを考え、実践することができるようにする。

### 1-4 単元の評価規準

#### ○ 関心・意欲・態度

- ①地域を支えている人々に関心を持ち、自分が調べてみたい人を進んで見つけようとする。
- ②目的意識をもって意欲的に地域の人とふれあい、自分を見つめ直そうとする。

#### ○ 思考・判断

- ①見通しを持って、地域を支える人々の生き方や考え方を調べる計画を立てたり、調べた内容を整理したりすることができる。
- ②地域を支える人々を調べ、それぞれに違った職業や立場にありながらも地域の安全と発展のために努力しようとしていることを見だし、地域を支える人々の役割から自分のあり方を見つめ直し、地域社会の一員として、その文化や生活の発展のために自分ができることを考えだすことができる。

#### ○ 技能・表現

- ①様々な人々と接する中で、社会生活に必要な習慣や技能を身につけることができる。

#### ○ 知識・理解

- ①地域を支えている人々を調べる活動を通して、地域を支えている人々の生き方や考え方の共通性と特殊性を理解する。

### 1-5 学習過程と評価計画

学習活動	支援 (方法・内容)	評価規準				評価資料
		関心意欲態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
1, 地域を支えている人にはどのような人々がいるか話し合い、調べた人を決める。 (3)	・自分の住んでいる地域の人や関わっている人の中から考え、発表しよう助言する。 (例) 町会長、商店会長、PTA 会長、商店主、スポーツ少年団指導者、消防団、交通指導員、駅員、	①				ワークシート1-①
①地域を支えている人にはどのような人々がいるか考え発表し合う。 (1)						

<p>②地域を支えている人々を分類し、調べたい人を決める。(2)</p>	<p>①</p> <p>獨協大学の先生、せんべい職人、農業従事者、警察署員、校医、幼稚園の先生、保育士など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の発表ででてきた「地域を支える人々」の一覧表を作成し、その中で特に、興味や関心を持った人を選び、調べたい理由を明確にもたせる。</li> <li>・地域を支えている人を4つのグループに分類し、そのうちの1つのグループを選択し、希望の合う児童どうしで2～3人の班をつくりグループの中で調べたい人を決める。</li> <li>・班編制は学級を解体して行う。</li> </ul>					<p>ワークシート1-②</p>
<p>2, 調べに行くための事前準備をする。(4)</p> <p>①調べる計画を立て、交渉のために必要な事柄を考え、まとめる。(2)</p> <p>②友達どうしで交渉や訪問の練習をする。(1)</p> <p>③交渉し、訪問先の都合を聞く。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉のときに気をつける事柄や考えをしておくかなければならない事などをじっくりと考えることができるように、充分時間を取り、助言する。</li> <li>(例) 訪問の目的、知りたい内容、依頼状の書き方、電話での交渉の仕方、訪問の仕方(挨拶、言葉遣い等)</li> <li>・友達同士で、交渉や訪問の仕方を練習をし、内容が相手によく伝わるような話し方ができるようにする。</li> <li>・訪問先が学区内にあるグループは依頼状を持って直接交渉に行く。</li> <li>・電話を使うグループは職員室などの電話を使って、各自訪問したい相</li> </ul>	<p>①</p>	<p>①</p>	<p>①</p>	<p>①</p>	<p>ワークシート2-① a, b</p> <p>チェックカード2-② (相互評価)</p> <p>チェックカード2-③ (相互評価)</p>

	手に交渉するようにする。					
3, 調べたい人のところへ訪問し、話を聞く。(4) ①訪問をし話を聞く。(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問の様子を把握するために訪問先を3人の教師が分担して回る。</li> <li>・訪問して聞いた内容や体験したことを訪問カードにメモしておき、訪問後気づいたことなどを整理しておくよう指示する。</li> </ul>	②		①		訪問評価カード 3-①
②聞いてきたことを整理し、原稿にまとめる準備を行う。(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューしてわかったことや学んだことを整理し原稿にまとめる準備をするよう指示する。なお、原稿にまとめるために必要な内容が十分集められなかったグループは再度訪問する。</li> <li>・再度訪問の必要のあるグループには、より充実したインタビュー内容になるよう支援する。</li> </ul>		①			ワークシート 3-②
4, 訪問して学んだことをまとめ、冊子にする。(6) ①調べたことを原稿にまとめる。(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問して分かったことや学んだこと、考えたことを整理し、原稿に書くことができるようにする。</li> <li>・訪問先の人の生き方にふれ、自分自身を見つめ直し、今後の生活について考えまとめるように支援する。</li> </ul>		②	①	①	人物集「わたしのまちのサポーター」原稿4-①
②インタビューした人に原稿の内容を確認していただくために訪問する。(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿の書き方や構成についての基本的な形式を事前に提示しておく。</li> </ul>			①		
③完成した人物集「わたしのまちの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問の様子を把握と安全確認のた</li> </ul>		②		①	感想カード

<p>サポーター」を読み合い情報交換を行う。(2)</p>	<p>めに訪問先を3人の教師が分担して回る。          ・多くの人々が様々な生き方や考え方を持っていて地域を支えていることに気づき、さらに学びを深めるために、完成した人物集を読むようにする。          ・感想カードに書くことによって、今の自分をふりかえり、これからの自分を見つめるようにする。</p>					
-------------------------------	--	--	--	--	--	--

1-6 評価基準

学習活動	評価規準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
<p>1-① 地域を支える人にはどのような人々がいるか考え発表し合う。</p>	<p>関心意欲態度 ①</p>	<p>地域を支えている人々に関心を持って、どのような人々がいるか書き出そうとする。</p>	<p>ワークシート 1-①</p>	<p>地域を支えている人を10人以上書き出している。</p>	<p>地域を支えている人を5人以上書き出している。</p>	<p>地域を支えている人を0～4人書き出している。</p>
<p>② 地域を支えている人々を分類し、調べたい人を決める</p>	<p>関心意欲態度 ①</p>	<p>地域を支えている人々の中から、自分が関心がある人を選ぶようにする。</p>	<p>ワークシート 1-②</p>	<p>調べてみたい人について第3希望まで選び、選んだ理由をそれぞれ2つ以上書いている。</p>	<p>調べてみたい人について第3希望まで選び、選んだ理由をそれぞれ一つずつ書いている。</p>	<p>調べてみたい人について第3希望まで選ぶことができないが、選んだ理由を書いている。</p>
<p>2-① 調べる計画を立て、交渉のために必要な事柄を考え、まとめる。</p>	<p>思考判断 ①</p>	<p>訪問のときのインタビューの内容を考察することができる。          調べた人の紹介《3つの観点》          ① どのような職業や立場についているか。          ② どのような願いを持っているか。          ③ どのような努力や工夫をしているか。</p>	<p>ワークシート 2-① a</p>	<p>インタビューの内容を3つの観点をふくめて4観点以上書いている。</p>	<p>インタビューの内容を3つの観点について書いている。</p>	<p>インタビューの内容を0～2観点しか書いていない。</p>
	<p>技能表現 ①</p>	<p>交渉や訪問のために必要な事柄をワークシートにまとめることができる。          a 依頼状          b 電話での交渉の仕方          c 訪問の仕方</p>	<p>ワークシート 2-① b</p>	<p>a, b, c 3項目のいずれかについて敬語を使って書いている。</p>	<p>a, b, c 3項目のいずれかについて書いている。</p>	<p>a, b, c 3項目のいずれも書いていない。</p>
<p>② 友達どうして交渉や訪問の練習</p>	<p>技能表現</p>	<p>友達同士で、交渉や訪問の仕方を練習を</p>	<p>チェック</p>	<p>チェックカードの評価項目</p>	<p>チェックカードの評価項目</p>	<p>チェックカードの評価項目</p>

習をする。	①	し、内容が相手によく伝わるような話し方ができる。 ①あいさつ・返事 ②声の大きさ ③話す速さ ④視線 ⑤姿勢 ⑥笑顔で	カード2-② (相互評価)	で5項目以上までできている。	で4項目できている。	できているものが3項目以下である。
③電話で交渉し、訪問先の都合を聞き、依頼文を書く。	技能表現 ①	相手を意識して、訪問先の都合を聞くことができる。 ①あいさつ・返事 ②言葉づかい ③声の大きさ ④話す速さ ⑤メモの内容 ⑥聞いた内容の確認	チェックカード2-③ (相互評価)	チェックカードの評価項目で6項目以上できている。	チェックカードの評価項目で4～5項目できている。	チェックカードの評価項目できているものが3項目以下である。
3-①訪問をし、話を聞く。	技能表現 ①	あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、訪問先の人とコミュニケーションをとることができる。 ①言葉遣い ②あいさつ ③声の大きさ ④話す速さ ⑤視線 ⑥姿勢 ⑦笑顔で	訪問評価カード3-①	訪問評価カードの評定で6項目以上できている。	訪問評価カードの評定4～5項目できている。	訪問評価カードの評定できている項目が3項目以下である。
	関心意欲態度 ②	目的意識を持って意欲的に地域の人とふれあい、自分を見つめ直そうとする。	訪問評価カード(感想) 3-①	訪問先の方の考え方にふれ、自分を見つめ直し感想が書けている。	訪問先の方の考え方にふれ、感想が書けている。	訪問にいった感想のみを書いている。
②聞いてきたことを整理し、原稿にまとめる準備を行う。	思考判断 ①	インタビューしてきた内容を整理することができる。 《3つの要点》 ①どんな職業や立場についているか。 ②どんな願いを持っているか。 ③どんな努力や工夫をしているか。	ワークシート3-②	インタビューの内容を3つの観点をふくめて4観点以上記録している。	インタビューの内容を3つの観点について記録している。	インタビューの内容を0～2観点しか記録していない。
4-①調べたことを原稿にまとめる。	思考判断 ②	調べた内容や自分の考えを整理して原稿にまとめることができる。 《4つの観点》 ①どんな職業や立場についているか。	人物集「わたしのまのさぽ	4つの観点について、整理してまとめている。	3つの観点について、整理してまとめている。	1～2つの観点について、整理してまとめている。

		<p>②どんな願いを持っているか。</p> <p>③どんな努力や工夫をしているか。</p> <p>④インタビューした人からどんなことを学んだか。</p>	<p>「ター」原稿4-①</p>			
	<p>知識理解①</p>	<p>調べた人の生き方や考え方を理解する。</p>	<p>人物集「わたしのまのちのサター」原稿4-①</p>	<p>調べた人の生き方や考え方と地域生活との結びつきにふれて書いている。</p>	<p>調べた人の生き方や考え方について書いている。</p>	<p>調べた人の生き方や考え方について書していない。</p>
<p>②インタビューした人に原稿の内容を確認していただくために訪問する。</p>	<p>技能表現①</p>	<p>あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、訪問先の人とコミュニケーションをとることができる。</p> <p>①言葉遣い</p> <p>②あいさつ</p> <p>③声の大きさ</p> <p>④話す速さ</p> <p>⑤視線</p> <p>⑥姿勢</p> <p>⑦笑顔で</p>	<p>訪問評価カード4-②</p>	<p>訪問評価カードの評定で6項目以上できている。</p>	<p>訪問評価カードの評定4～5項目できている。</p>	<p>訪問評価カードの評定でできていない項目が3項目以下である。</p>
<p>③完成した人物集「わたしのまのちのサター」を読み合う。</p>	<p>思考判断②</p>	<p>人物集を読んで、地域社会のために自分ができることを考えることができる。</p> <p>《2つの観点》</p> <p>①違った職業や立場にありながらも地域の安全や発展のために努力していること。</p> <p>②地域社会の一員として、その文化や生活の発展のために自分ができることを考えること。</p>	<p>感想カード</p>	<p>2つの観点到ふれ感想を書いている。</p>	<p>1つの観点到ふれ感想を書いている。</p>	<p>観点到ふれた感想が書けていない</p>
	<p>知識理解①</p>	<p>それぞれの人が様々な活動や仕事を通して、共通な願いを持って地域を支えていることを理解する。</p>	<p>感想カード</p>	<p>それぞれの人が様々な活動や仕事を通して、共通な願いを持って地域を支えていることを書いている。</p>	<p>それぞれの人が様々な活動や仕事を通して、地域を支えていることを書いている。</p>	<p>それぞれの人が様々な活動や仕事を通して、地域を支えていることを書いている。</p>

## 2 授業と評価の実践

### 2-1 授業と評価の一体化の実践

学習活動 1 ①地域を指せている人にはどのような人がいるか考え発表し合う。

#### ① 指導・学習の過程

まず、地域を支えている人々にはどのような人がいるかを話し合うことにした。はじめは、学校や習い事に関わる人などをあげる意見が多くあったが、次第に、商店主や製造業、バスや電車、警察や消防署、市長とどんどん広がりを見せた。学年で意見をまとめると、100人を超す地域を支える人々を見つけることができた。そして、これらの人々を4つのグループに分類した。

分類した4つのグループから自分が調べてみたいグループを1つ選び、その中から調べたい人を決めた。1チーム3～4人でひとりの人を調べることにした。

その結果、下のような25チームに分かれた。

〈グループ〉

〈各チームで調べる人〉

- ・「学校生活を支えている人」 (技能員)
- ・「健康・安全を支えている人」 (看護師、救急・消防・レスキュー、交通指導員、警察署、交番)
- ・「余暇を支えている人」 (塾の先生、図書館のボランティア、サッカーのコーチ)
- ・「生活を支えている人」 (町会長、市長、リサイクル業者、銀行員、コンビニ店長、美容師、スーパーの店長、ラーメン屋の店長、ゲームショップの店長、文房具屋店長、駅長、老人ホーム、シルバー人材センター、ボランティア、新聞配達員、せんべいを作る人)

#### ② 評価結果

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・態度①	地域を支えている人に関心を持って、どのような人がいるか書き出そうとする。	46人	33人	1人

#### ③ 指導の改善と実施

はじめは、地域を支えている人とはどのような人々なのか、よくわかっていなかった子や、関心を示さなかった子も話し合いを進める中で、徐々に気づいていき、99%の児童が2の段階にまで到達することができた。

学習活動 1 ②地域を指せている人々を分類し、調べたい人を決める。

① 指導・学習の過程

前時で分類した4つのグループから自分が調べてみたいグループを1つ選び、その中から調べたい人を決めた。調べてみたいグループごとに集まり、1チーム3～4人でひとりの人を調べることにした。

②評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・態度①	地域を支えている人々の中から、自分が関心がある人を選ぼうとする。	38人	40人	3人

③指導の改善と実施

学習活動1-①で各クラスからあげられた地域を支えている人々を、学年全体でまとめ分類したときには、「地域を支えている人って、こんなにたくさんいるんだ。」と驚きの声があがった。しかし、その人達が地域の中で、実際にどのような働きをし、どのように地域を支えているかを理解している児童は極めて少なかった。そこで、それらの人について深く調べていく学習を展開していくことになるのだが、上の評価結果からも分かるように、「自分が調べてみたいと思う人を選ぶことができる」でAの段階に到達していた児童は46%であった。学習活動のはじめの段階でもあるので、どう調べていったらよいのか見通しが持てず、不安に思う児童が多くいることが分かった。次の「調べにいくための事前準備をする」という学習活動Bの段階で、見通しを持てるように支援していくことにした。

学習活動 2 ①調べる計画を立て、交渉のために必要な事柄を考え、まとめる

① 指導・学習の過程

調べたい人がそれぞれ決まったので、次に、インタビューをさせてもらうための交渉や、訪問のために必要な事柄を考え、話し合った。5年生のときの学習で、依頼状などを書く学習を行っていたので、人との交渉にあたりどのようなことをしたらいいのかということは、児童から意見がでてきた。そこで、依頼状の内容、電話での交渉の仕方、訪問の仕方などをチームごとにワークシートにまとめ、練習を行った。

インタビューしたい人との交渉は、始めは電話での交渉を考えていたが、学区内の訪問先については、話し合いの結果、直接交渉に行くことになった。その際、児童が書いた依頼状と学校が作成した依頼状（総合的学習の時間の学習であり、協力願いたい旨の内容）を持って訪問した。インタビューの交渉のための訪問であったが、訪問先の都合で、その場でインタビューとなったチームもあった。また、市長について調べたいチー

ムは、直接会ってはもらえないことが予想されたため、依頼状に往復はがきを同封し、郵送にて交渉することにした。

## ② 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	訪問のときのインタビューの内容を 考えることができる。	60人	14人	7人
技能・表現①	交渉や訪問のために必要な事柄 をワークシートにまとめること ができる。	26人	48人	7人

## ③ 指導の改善と実施

依頼状の内容がうまくまとめられなかったり、インタビューの内容について仕事の内容のみとなってしまったりする児童も多くいた。そこで、目標にそって良く書けている児童の原稿を印刷し各チームに配り、参考にしながら書けるよう支援した。また、インタビュー内容を書き出すときに、「自分で考えて書いたこと」「チームの人といっしょに考えて書いたこと」「人の考えを聞いて書いたこと」と分けて記述することにより、自分自身で考え出そうとする意欲が高まったり、他の人の意見にも真剣に耳を傾けようとする児童が増えたりした。その結果、91%の児童がBの段階にまで到達することができた。

学習活動2 ②友達どうして交渉や訪問の練習をする。

### ① 指導・学習の過程

調べる計画や、必要な事柄をもとに友達同士で、交渉や訪問の仕方を、内容が相手によく伝わるような話し方ができるよう練習をする。

## ② 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	友達同士で、交渉や訪問の仕方を 練習をし、内容が相手によく 伝わるような話し方ができる。	45人	24人	9人

## ③ 指導の改善と実施

インタビューするとき大切なポイントを項目にあげたチェックカードを使ったので、評価する人もされる人も相手を意識しながら練習することができた。その結果、あいさつや言葉遣い、訪問においての礼儀などの技能を、練習の段階では高めることができた。児童の様子を観察して判断できた。しかし、評価結果では、Aの段階に到

達した児童は58%にとどまっていた。これは、実際の訪問を強く意識したため、お互いの評価が厳しくなったと考えられる。

児童にとって、自分たちと距離がある大人と交渉することは初めてなので、練習は緊張感を持って行っていた。練習後の感想では「どきどきするけど、早く訪問に行きたい。」など意欲を見せる内容のものが多くなってきた。

学習活動2 ③交渉し、訪問先の都合を聞く。

① 指導・学習の過程

訪問先との交渉にあたっては、訪問先が学区内にあるグループは依頼状を持って直接交渉に行くこととし、学区外や留守等が見込めるところについては、電話を使い交渉した。電話を使うグループは職員室などの電話を使い、各自訪問したい相手に交渉するようにした。

② 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	相手を意識して、訪問先の都合を聞くことができる。	32人	38人	5人

③ 指導の改善と実施

A段階が43%、B段階が50%と練習時の評価よりも下回ってしまったのは、初めて会う大人の人との交渉で緊張し、練習の成果を十分発揮できない児童がいたためと考えられる。そこで、インタビューに向けて、もう一度インタビューの内容を確認したり、訪問の仕方を練習したりして、自信をつけるよう支援した。児童も次の訪問で力を十分発揮できるように、休み時間などを利用して、進んでチーム内で練習する姿が見られた。

学習活動3 ①訪問をし話を聞く。

① 指導・学習の過程

インタビューをするためにチームごとに訪問先に行った。学校を出る前に、各チームが校外学習実施届を校長または教頭に提出し、許可をもらってから学校を出発した。前回の学習活動Bの段階（インタビューをさせてもらうために交渉に行った段階）で、インタビューが済んでしまったチームは、インタビュー内容を整理する活動を行うことにした。市長との交渉を郵送で行ったチームは、直接会うことはできなかったが、市長からインタビュー内容に対する返答と手紙が届いたので、それをもとに学習を進めることにした。また、インタビューが早く終わって戻ってきたチームもインタビュー内容を整理する学習活動を行った。

② 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、訪問先の人とコミュニケーションをとることができる。	45人	24人	6人
関心・意欲・態度②	目的意識を持って意欲的に地域の人とふれあい、自分を見つめ直そうとする。	18人	52人	2人

③ 指導の改善と実施

技能・表現については、学習活動2に続いて2度目の訪問になるので、児童の緊張もほぐれ、落ち着いて対応できたためか、評価結果が向上している。特に、あいさつや言葉遣いについては90%の児童が「できた」と相互評価していた。また、2度目の訪問ということで、訪問先の人とも親しくなり、お茶やお菓子を出して接待してくれたと喜んで帰ってくるチームもあった。ただ、訪問先の人々がどんな考え方や生き方、願いを持って地域のために、または自分自身のために働いたり活動したりしているかを意識しながらインタビューしたかという点、A段階が18人(25%)との評価結果からすると、充分ではないことが明らかになった。不十分な点については、紀伊へ来てことを整理し、原稿にまとめる準備を行う時点で指導することとした。また、この活動では、津グループごとに活動時間の差が出るので、個々にグループの指導にあたった。

学習活動3 ②聞いてきたことを整理し、原稿にまとめる準備を行う。

① 指導・学習の過程

訪問が終わったグループから、インタビューしてわかったことや学んだことを整理し原稿にまとめる準備をするよう指示した。なお、原稿にまとめるために必要な内容が十分集められなかったグループは再度訪問するようにした。

再度訪問の必要のあるグループには、より充実したインタビュー内容になるよう支援する。

② 評価結果

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	インタビューしてきた内容を整理することができる。	19人	55人	4人

③ 指導の改善と実施

インタビューしてきた内容を整理してみても、地域の人々の生き方や考え方に迫り、

自分の生活を見つめ直すまでの原稿にまとめられるだけのインタビュー内容になっているチームが少ないこともはっきりした。そこで、ねらいに迫ったインタビュー内容をもう一度考えさせ、放課後や休日なども利用して再度インタビューに行くよう支援した。

学習活動4 ①調べたことを原稿にまとめる。  
②インタビューした人に原稿の内容を確認していただくために訪問する。

### ① 指導。学習の過程

インタビュー内容や自分の考えを整理し、チームでA4用紙1枚分の原稿に仕上げた。その際、まず一人ひとりが自分の力で原稿を書き、その後チームの人が書いたそれぞれの原稿を読み合い、ひとつにまとめていくようにした。

次に、書き上げた原稿をインタビューした人に確認してもらうために、原稿を持って再度訪問した。ファックスでもよいというところについては、学校からファックスを送り、電話等で確認した。人物集として冊子に掲載することの許可ももらい、人物集ができあがった。

最後にできあがった人物集を読みあい、感想を書いて学習のまとめとした。

### ② 評価結果

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断②	調べた内容や自分の考えを整理して原稿にまとめることができる。	26人	54人	1人
知識・理解①	調べた人の生き方や考え方を理解する。	26人	54人	1人
技能・表現①	あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、訪問先の人とコミュニケーションをとることができる。	45人	9人	0人
思考・判断②	人物集を読んで、地域社会のために自分ができることを考えることができる。	52人	21人	3人
知識・理解①	それぞれの人が様々な活動や仕事を通し、共通な願いを持って地域を支えていることを理解する。	52人	21人	3人

### ③ 指導の改善と実施

調べた内容や自分の考えを整理して原稿にまとめる活動の評価は、4つの観点(評価

規準・基準の表参照)について書いているか否かで評価したが、個人差が大きかった。国語力(作文力)に関わることなので当然予想されたことだが、自分の力で評価基準のAの段階に到達できた児童は32%であった。Bの段階の67%と合わせれば99%と高い評価結果となっているが、調べたことを文章にまとめるという力は、あらゆる学習活動場面において今後も培っていかねばならないことを再認識した。しかし、今回まとめるものは人物集として冊子にし、インタビューしてくださった方々にもお渡しするという事になっている。そこで、各チームのそれぞれの児童が書いた原稿内容を推敲しひとつにまとめる作業を教師も支援し、最終的にどのチームの原稿も4つの観点がかかれていた内容に仕上げた。こうして何度か推敲を繰り返すうちに、インタビューした人の仕事や活動に対する努力や工夫、人々のために役に立ちたいという願いや考え方に深く迫るようになっていった。

次に、苦勞して書き上げた原稿をインタビューしてくれた人に読んでもらい、人物集として冊子に掲載してもよいか許可をもらうための訪問となった。チームによっては3度目から4度目の訪問になるため、ほとんど教師の支援や指導を必要とせず、自信を持って訪問先へと出かけていった。直接訪問できなかったチームも、事前に電話連絡をし、ファックスで原稿の確認をしてもらった。電話での対応の仕方も、簡単なメモを書いておくだけで対応でき、ファックスでの送信の仕方も確実に身につけていった。「技能・表現」の評価結果を見ても明らかのように、83%もの児童がAの段階に到達した。社会生活に必要な習慣や技能が十分身に付いていなかった児童であったが、同じ活動(訪問や電話)を何度か繰り返すことで、コミュニケーション能力が高まったといえる。

最後に完成した人物集を全員で読み合い感想を書いた。感想の内容から、「それぞれの人が様々な活動や仕事を通し共通な願いを持って地域を支えていることを理解し」(知識・理解)、「さらに地域社会の一員として自分にできることを考えることができたか」(思考・判断)を評価した。評価結果を見ると、Aの段階に68%の児童が到達していた。学習活動4-①の段階での思考・判断、知識・理解のAの段階の評価が32%だったことから比較すると大きく向上している。人物集に書かれていた内容が、今回の単元の目標に迫る内容になっていたことから、それを読むことによって、より多くの地域を支えている人の存在を知り、それらの人々が、それぞれに違った職業や立場にありながらも、地域の安全や発展のために努力していることを深く感じる事ができたのだと考えられる。児童は、単元の最終段階の学習活動で、今回の学習の「価値」を認識することができたようだ。この学習を通して、地域に対する関心や、地域に働きかけていこうとする意欲の低かった児童のそれは、確実に高まったと言える。

## 2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

### (1) 第一レベルの工夫

① 活動の前にあらかじめ評価の観点と評価基準を示し、意欲を持って活動できるように工夫した。例えば、学習活動2のインタビュー内容をグループで考える活動においても、ワークシートに、インタビュー内容に入れる3つの観点「①仕事の内容②仕事や活動に対する願い③努力していることやくふうしていること」と評価基準を記入し、

活動させた。また、その際に箇条書きにした学習内容の先頭に印をつけることにより、誰が考えた意見かを明確にする工夫を行った。自分で考えた意見の始めには「・」、チームの人といっしょに考えた意見には「◎」、また、人の意見を聞いて書いたは「赤○」としてグループ学習の際の自分の思考の状態を意識させるようなワークシートを作成した。

② 学習活動2の事前準備では、依頼状を書いたり交渉の準備を行う活動を行った。足りないところについて教師が言葉かけをしたり、3に達している児童のワークシートを全員に印刷して配り、足りないポイントや改善点をグループの中で確認させるよう工夫した。

## (2) 第二レベルの工夫

① 2回目、3回目の訪問にあたって、学習活動3で使用した訪問評価カードと同じ評価カードを使うことにより前回の訪問でのうまくいかなかった点を改善し、よりよい訪問にしようという児童の学習意欲を高めるようにした。また同じ評価カードを使用することにより、児童自身が自らの成長に気づけるよう工夫した。これらの工夫は、訪問を何回か繰り返すことによって、児童が自己の目標なり評価規準、さらには評価基準を自ら設定し、教師のその内面化を図ることになった。この回数を重ねるといった機会等を活用しながら、児童が活動を展開し、評価基準をもとにその跡を振り返る（自己評価する）といった評価活動を展開することによって、児童は自己学習力を身につけていったのである。

それは、つぎのような児童の感想にあらわれている。

「ぼくはこの学習をして…。人の生き方や考え方を調べることによって、自分の生き方や考え方を直すことができ…。今まで将来の夢がなかったけれど…。将来の夢を持ち前向きな生き方や考え方をしていきたいと思うようになりました。」のように、自分の生き方考え方を換え、自分にできることを見つめる学習になったと考える。

## 2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

### (1) 単元における総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については、学習活動1-①②、3-①の評価結果の総和で、「思考・判断」については、学習活動2-①、3-②、4-①③の総和で、「技能・表現」については、学習活動2-①②③、3-①、4-②の総和で、「知識理解」については、学習活動4-①③の総和で行うことにした。その結果、以下の通りである。

#### ① 「関心・意欲・態度」について

		評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合計
観	点					

関心・意欲・態度①（学習活動1-①）	46人	33人	1人	80人
関心・意欲・態度①（学習活動1-②）	38人	40人	3人	81人
関心・意欲・態度②（学習活動3-①）	18人	52人	2人	72人
合 計	102人	125人	6人	233人

表より、「関心・意欲・態度①」では、総計161人中、評価Aが84人、評価Bが73人であり、合計157人（98%）が目標を達成したことになる。

「関心・意欲・態度②」では、72人中、評価Aが18人、評価Bが52人であり、合計70人（97%）で目標を達成したことになる。ここで、評価Aが18人（25%）と少なかったのは、訪問先の人から多くのことを聞き、その人の活動の内容や生き方、考え方などに感動したため、それらのことを感想に書くことに夢中になり、自分を見つめ直したことにふれられなかったと考えられる。

「関心・意欲・態度」全体では、評価B以上が227人で、97%となる。その目標を達成することができたと考える。

## ② 「思考・判断」について

観 点	評価基準	A 3	B (2)	C (1)	合 計
	思考・判断①（学習活動2-①）		60人	14人	7人
思考・判断①（学習活動3-②）		19人	55人	4人	78人
思考・判断②（学習活動4-①）		26人	54人	1人	81人
思考・判断②（学習活動4-③）		52人	21人	3人	76人
合 計		97人	144人	15人	256人

表より、「思考・判断①」では、総計159人中、評価Aが79人、評価Bが69人であり、合計148人（93%）が目標を達成したことになる。学習活動2-①と比較し、学習活動3-②の評価Aの人数が少なくなっているが、3-②は、実際にインタビューすることができた内容を整理したものであるから、必要条件（3観点）を満たしている評価B以上で十分と考えられるので、学習効果は上がっていると言える。

「思考・判断②」では、総計157人中、評価Aが78人、評価Bが75人であり、合

計153人（ $153 \div 157 \rightarrow$ 約97%）が目標を達成したことになる。学習活動4-①で書いた人物集の原稿をインタビューした人に確認してもらった活動で、これまでの学習を相手の人に認めてもらえたり、新たに得た情報を原稿に書き加えたりする中で、人物集を読み合う学習活動4-③への意欲が高まり、しっかり読み取り、自分の考えを持つことができた。

このため、「思考・判断」全体では、評価B以上は241人で、94%となる。その目標を達成することができたと考える。

③ 「技能・表現」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計
技能・表現① (学習活動2-①)	26人	48人	7人	81人
技能・表現① (学習活動2-②)	45人	24人	9人	78人
技能・表現① (学習活動2-③)	32人	38人	5人	75人
技能・表現① (学習活動3-①)	45人	24人	6人	75人
技能・表現① (学習活動4-②)	45人	9人	0人	54人
合 計	193人	143人	27人	363人

表より、「技能・表現」では、総計363人中、評価Aが193人、評価Bが143人であり、合計336人（93%）で目標を達成したことになる。その目標を達成することができたとも考える。

なお、学習活動2-③は電話または訪問しての依頼、3-①はインタビュー、4-②は訪問しての原稿確認であるが、それぞれの活動で評価Aとなった人数の割合は、それぞれ43%、60%、83%であり、着実に向上していた。チェックカードを用いた相互評価をすることで、その都度、自分を振り返ることができた学習が効果的であったものと考えられる。また、ここで学んだ言葉遣いは、学習活動4-③の感想を書く中で、十分生かされていた。

④ 「知識・理解」について

観 点 \ 評価基準	A (3)	B (2)	C (1)	合 計

知識・理解①（学習活動4-①）	26人	54人	1人	81人
知識・理解①（学習活動4-③）	52人	21人	3人	76人
合計	78人	75人	4人	157人

表より、「知識・理解」では、総計157人中、評価Aが78人、評価Bが75人であり、合計153人（ $153 \div 157 \rightarrow$ 約97%）で目標を達成したことになる。その目標を達成することができたと考える。

なお、学習活動4-①での評価Aの26人（32%）から学習活動4-③での評価Aの52人（68%）へと大きく向上しているのは、出来上がった人物集を読むことで、自分が調べた人だけでなく、さまざまな人々の生き方や考え方にふれ、地域との関わりについて考えることができたからと思われる。また、学習活動4-①から4-③へと評価基準を1ランクあげていることも合わせて考えれば、学習活動4はとても効果的であったと考えられる。

## （2） 個人内評価結果

次に、A児、B児の2名を事例にしながら、個人内評価結果の特質について検討することにする。そのため、まず、2名の児童の〈個人評価結果表〉を示すと、次のようである。

〈個人評価結果表〉

児童	学習活動	学習活動1		学習活動2			学習活動3		学習活動4			評定
		①	②	①	②	③	①	②	①	②	③	
A児	関意態	2	2				3					B
	思・判			3				3	3		3	A
	技・表			2	1	2	2			3		B
	知・理								3		3	A
B児	関意態	3	3				3					A
	思・判			3				3	3		3	A
	技・表			3	3	3	3			3		A
	知・理								3		3	A

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60%～79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

### ① 観点間経時的評価

A児の評価結果を、大きく学習活動1、2と学習活動3、4の2つに分けて考えると、学習活動1、2では、思考・判断は3、関心・意欲・態度と技能・表現はほぼ2という構造的な発達特質がみられるが、学習活動3、4になると、4つの観点ともに、ほぼ3という高い水準の構造的な発達を示すようになってきている。A児が、地域の人と実際に関わる活動を通して、どんどん意欲的になり、技能・表現の力を高めてきたことが大きいと思われる。なお、評定はB・A・B・Aであった。

一方、B児は、学習活動1、2及び、3、4を通じて4観点ともに3であり、高い水準の構造的な特質のまま推移している。発達的特質が認められる。このため、評定においても4観点ともにAとなっている。

なお、B児と類似の構造的な発達特質を示す児童は、学年で他に12名いた。

## ② 観点内経時的評価

A児は、関心・意欲・態度は、2→2→3というように、2から3へと上昇し、高い水準の発達のまま学習を終了している。これは、学習活動3において、実際に地域の人と関わりインタビューする活動を通して、調べている人に対する関心が高まり、意欲が高まってきたことによると考える。なお、評定はBであった。また、A児と類似の関心・意欲・態度の発達傾向を示す児童は、学年全体で他に15名いた。

思考・判断では、3→3→3→3というように、高い水準の発達のまま推移しており、評定もAであった。A児と類似の思考・判断の発達傾向を示す児童は、学年全体で他に38名いた。

技能・表現に関しては、2→1→2→2→3というように、下降・上昇を繰り返した後3へと上昇したまま学習を終了している。このような発達傾向は、交渉やインタビュー、原稿の掲載にあたっての原稿内容の確認など、何度も訪問する中で、訪問先の人との間に関係ができ、安心して落ち着いて話せるようになり、自信がつくと同時に、コミュニケーションの技能が高まったことによるものと考えられる。なお、評定はBであった。また、A児と類似の技能・表現の発達傾向を示す児童は、学年全体で他に32名いた。

知識・理解は、3→3というように、高い水準の発達のまま推移している。評定もAであった。なお、A児と類似の知識・理解の発達傾向を示す児童は、学年全体で他に16名いた。

一方、B児は、4つの観点それぞれともに、すべての学習活動を通じて評価3のまま推移しており、評定も、4つの観点ともにそれぞれAであった。

なお、B児と類似の発達傾向を示す児童は、学年全体で他に、関心・意欲・態度では4人、思考・判断では12人、技能・表現では7人、知識・理解は17人いた。